

千玄室大宗匠について

特別記念講演をしていただく予定だった千玄室大宗匠(裏千家今日庵第15代家元)は、8月14日に急逝しました。102歳というご高齢ながら、今年6月には、いくつかの場で講演をされ、さらに戦後80周年に際して国内外の多くのメディアの取材を受けるなど、精力的に活動を続けられていた矢先のことでした。

大宗匠については、多くの新聞が特別記事を出しています。

[朝日新聞による死亡記事](#)

また、テレビ局は、8月末に再放送等をしています。

[○NHK 100年のお茶 京都・裏千家大宗匠 千玄室さんに聞く](#)

[○NHK アカデミア 千玄室 茶道と世界平和\(前・後編\)](#)

[○MBS 元特攻隊員・千玄室さんの最後のメッセージ 戦後80年を生きる日本人へ](#)

以上をご覧になっていただければ、千玄室大宗匠の業績だけではなく、人となり、そして平和についての思想を知っていただけるのではないかと思います。

追伸

私が大宗匠に初めてお会いし、お声をかけていただいたのは、1985年に沖縄県で行われた裏千家主催の「戦後40周年平和の祈り」という慰霊祭、献茶、茶会といった一連の行事の中でした。琉球大学茶道部に入部し、お茶を習い始めて4年目の私にとっては、まさに雲の上の方でした。

その後、修道を続けて、幸いにも濃茶を2回、薄茶を4回差し上げる機会に恵まれました。宗教学者の山折哲雄氏は、大宗匠を評して、「日本の伝統文化を真に代表する人であり、日本の文化を世界中に伝えた。これほどの仕事をした人は戦後日本に存在しない」とした泰斗でしたが、巨大な包容力があり、近寄り難いということはなく、とても優しい方でした。

しかし、面前で点前をしていると、ぎょろっとした眼でじっと見つめられ、心の奥底まで見透かされ、私が人間としても、茶人としても、修養が足りないことが白日の下に曝されているということを毎回感じていました。人間がこれだけ大きく、深い存在になることができるのだということを感じられた方、千玄室大宗匠と、近くで接することができたことは、私の64年の人生において貴重な財産です。

増田 昌人

千玄室大宗匠

大正 12 年京都府生。同志社大学法学部経済学科卒業。ハワイ大学修学。韓国中央大學校大学院博士課程修了。文学博士。昭和 39 年千利休居士 15 代家元を継承。裏千家今日庵庵主として宗室を襲名。平成 14 年嫡男に家元を譲座し、千 玄室に改名。

「一盃からピースフルネスを」の理念を提唱し、国際的な視野で茶道文化の浸透と世界平和を願い、各国を歴訪。

現在の主な役職に外務省参与、ユネスコ親善大使、日本・国連親善大使(外務省)、日本国 観光親善大使(国土交通省)、公益財団法人日本国際連合協会会長、公益社団法人日本馬術連盟会長、ペルー共和国名誉領事、京都大学大学院特任教授、ハワイ大学教授。国内外で名誉博士号を多数受けている。

紫綬褒章、藍綬褒章、文化功労者国家顕彰、勲二等旭日重光章、文化勲章、内閣総理大臣顕彰、レジオン・ドヌール勲章 コマンドゥール(仏)、大功労十字章(独)、聖マウリツィオ・ラザロ騎士団最高位大十字騎士勲章<ナイトの称号を受ける>(伊)、独立勲章第一級(UAE)、グラン・オフィシャル勲章 外交功労勲章(ペルー)等受章。小松市名誉市民、京都市名誉市民。ホノルル名誉市民『Key to the City』など海外でも多くの名誉市民を受けている。

